

進行癌の温熱併用治療による長期生存例の検討

原三信病院

放射線科 寺嶋廣美、佐藤芳子

森田彩子、添田博康

臨床工学科 元村哲也、真鍋麻美、嶽本洋

平成 24 年 5 月より原三信病院にて温熱療法を開始し、平成 28 年 6 月 30 日までに 270 例を加温した。

対象は肺癌 15%、大腸癌 15%、膵臓癌 14%、胃癌 10%、泌尿器科癌 8%などが主で、全症例が進行癌、再発癌、転移癌などの予後不良例であった。その中で加温開始後 1 年以上経過した 207 例について検討した。

当院または他院における化学療法と温熱療法の併用例が主で、85%の症例が外来治療であった。加温は Thermotron-RF8 を用い、1 回 50 分間、1~2 週に 1 回、合計 8 回を 1 コールとし、可能な限り長期間継続することとした。しかし加温を中止せざるを得ない例もあり、8 回以上加温できた症例は 152 例 (73%) であった。その 152 例における粗生存率は、1 年 31/152 (20%)、2 年 15/152(10%)、3 年 5/152(3%)、4 年 3/152(2%)であり、少数ながら、長期の生存例も得られた。温熱療法は局所制御と根治率を改善することが主な目的であるが、症状改善にも寄与する。放射線療法、化学療法との併用による温熱療法は、腫瘍の縮小とともに症状の改善が得られ、ソフトランディングと長期生存も望まれる治療法である。当院に昨年より導入された放射線治療との併用にて、より根治的な治療を目指していく予定である。